

## 地域情報

# 札幌の特性を活かした「札幌スタイル」創生に向けて



写真：酒井広司

札幌市は、従来型の地域産業振興策として、地場製品の顕彰を行ってきた「札幌市地場製品開発賞」および「Made In 札幌グランプリ」、そして、本市独自の産業振興策を模索する中で見いだされた福祉用具産業振興施策を集約し、さらに札幌の都市イメージを生かした幅広い産業分野の活性化を図ることを目的に、2004年からはデザインを活用した「札幌ブランド構築・推進事業」に取り組んでいる、札幌市経済局産業振興部新産業担当課ブランド推進担当係にお話を伺った。

### 産業振興への「デザイン」の視点の導入

札幌市では、'99年1月に策定した「札幌市長期総合計画」に基づいて、札幌の持つ資源や北の風土特性を活かした産業の振興を図り、これから成長が見込まれ、かつ誰もが暮らしやすい札幌を支える産業の育成を図るため、「札幌の産業振興策」を考えるワーキングチームを組織した。

「札幌の産業振興策」を考えるワーキングチームでは、独自に議論や調査研究を実施し、具体的な施策の展開に入る前の最終的なステップとして、'00年8月に「札幌の福祉産業の振興策を探る会議」を開催した。この会議では、札幌市内の福祉関連企業・団体の関係者や、学識者などの専門家を広く交え、異なる立場からの意見や見解を得ることができた。この会議をはじめとする具体策の検討で出た一つの結論は、「福祉用具産業の振興」に特化した活動を推進するというものであった。その理由は、製造業の集積が薄い札幌市においても、地元中小企業が参入するチャンスと可能性が大きいと推測されるためである。

そこで、今後推進されることとなる活動のキーワードは、「ユニバーサルデザイン」となり、ユニバーサルデザインの福祉用具の開発・研究に取り組むことが、正式に決まった。札幌の風土や特性を活かし、札幌における新しい産業の創出を図るための実験事業に本格的に着手することになったのである。

### 産学官による開発・研究プロジェクトがスタート

'00年10月、産官学が連携した「福祉用具のデザイン開発・研究プロジェクト」がスタートした。このプロジェクトでは、札幌市立高等専門学校の創造力、(社)日本福祉用具供給協会北海道支部会員企業の製造部門の蓄積された現場感覚や生産ノウハウ、さらに札幌市経済局の幅広いネットワークと統括力、それぞれのメリットを最大限に生かせる組織構成を実現している。

産学官の連携によって、商品の開発研究が行われるケースは、目新しいものではないが、全国各地で多数の取組はあるものの、実際に開発品が実用商品として一般店舗で市販され、成功に至った事例は決して多くはなかった。プロジェクトのメンバーは、その活動を本格始動するにあたり、一つの活動目標を定めた。それは、開発品を商品化して世に送り出すことであった。そしてこのプロジェクトは、机上の研究開発にとどまることなく、実用商品化に成功し、販売を実現した。さらには'03年にはグッドデザイン賞を受賞するなど優れた機能美を公に認められるまでの実績を築きあげた。

札幌市や北海道内だけでなく、全国的に見ても、産学官の連携プロジェクトで商品化につなげた事例は数少なく、この活動は大きな意義を持つ。

札幌に根ざした福祉用具製造企業の参加に

より、デザイナーの企画立案に商品の進化を付加し、流通販売ルートに乗せることができなかった。それは同時に、企業サイドにとっては、消費者ニーズに応える良質な商品の供給という、有益なビジネス戦略を達成したのと同意味を持ち、大きなメリットを有している。

今回、「学」に所属するデザイナーが、実用商品の開発に直接的に携わることにより、福祉用具企業の開発技術者では到達できなかった、全く新しい感性の商品の創造がなかった。検証を性能に加え、デザインにおいても実践する発想は、まさしく柔軟な思考力と姿勢を有する学識者ならではと考えられる。部分的ではあるものの、学生も活動に参加する試みは、ビジネスの合理的な見識と同時に若者らしい遊び心やユーモアが発揮されることとなり、人材育成の波及効果も期待される。

行政が主催する実験的なプロジェクトとして、札幌という地域特性に即した実用商品が開発・商品化されたことは、自信を持って大きな成果だといえる。そのうえ、商品が札幌市民から使える商品として喜ばれ、有識者から高い評価を得られたという事実は、産学官の連携プロジェクトが有効な手法である証となった。そのスタートは、行政の「産業振興に向けた施策」を具体化する働きかけで合ったことが、一つの方向性、そして可能性を示している。

### 実証された「デザインの可能性」

’04年3月に出された同プロジェクトの報告書には、デザインを活用した産業振興の可能性について、このように書かれている。

「不都合なく暮らすのに見映えは関係ありませんが、本当の意味で自由に生きるには見映えの良さは必要です。今回のプロジェクトは、機能美を実現したデザインが成功のカギとなっています」。「地域に根ざした視点、機能美というデザイン性、生活の質を高める機能、この3つのベクトルの融合をめざすその先に、札幌オリジナルのデザインがあるのではないかと。また、札幌オリジナルスタイルを追求し続けることに、産業振興のヒントもあるのです」。

’04年度にスタートした「札幌ブランド構築・推進事業」も、このようなデザイン観に拠って立っている。

### デザインを活用した総合的な産業振興施策へ

札幌市では、地場産業の振興を目的として、’87年度より’97年度まで、「地場製品開発賞」を実施し、優れた製品の顕彰につとめてきた。’98年度からは、これにデザイン性の要素を加味した「Made In 札幌グランプリ」へと引き継がれている。

一方、これまでに述べた「福祉用具のデザイン開発・研究プロジェクト」による「ユニバーサルデザイン」活用の実績もあり、これらを統合・再編する形で、「札幌ブランド構築・推進事業」がスタートした。

### 札幌ブランドと「札幌スタイル」

「地域ブランド」と言っても、札幌の場合、食品はともかくとして、工業製品については、オンリーワンの物を見つけて、一村一品運動を繰り広げることは難しい。

そこで、年間5mもの積雪がありながら、180万人以上の人口と高度な都市機能を有するこの街に独特の生活様式を「札幌スタイル」と定義し、デザインを活用して、魅力的な「札幌スタイル」を提案する活動を始めた。

つまり、札幌市が産業振興策として構築しようとしている「札幌ブランド」とは、「生活スタイル」であり、その生活スタイルを下支えしてくれる「製品群」である。

こういったブランド構築の手法は、現在ではむしろ古典的とも言うべきものであるが、オール札幌、オール北海道をベースに、個別の製品ではなく、「ライフスタイル」とそのための道具である「製品群」を提案する試みは、今はじまったばかりである。

### 「札幌スタイル」を軸にしたデザインムーブメントの創出を目指して

前述した「札幌スタイル」の確立のために、4つの柱となる事業を実施する

- 1 札幌スタイル認証制度
- 2 札幌スタイル・デザインコンペティション
- 3 札幌スタイル・デザインギャラリー
- 4 札幌スタイル・デザイン開発プロジェクト

1と2は具体的に「札幌スタイル」を提案し、創出してゆく作業である。「認証制度」は既存の製品から応募・審査を行い、「札幌スタイル」の製品として認定する事業。コンペティションは、今までにないデザインの製品を提案してもらい、入賞作品の製品化を目指す。

「札幌スタイル」の製品が今後、これらの事業を通じて生まれてくる。

しかし、一方で、「札幌スタイル」は確立されたものではない。むしろ、市民一人一人が自分の「札幌スタイル」を持っているはず。そこで、認証製品の販売やアンケートを通して、提案された「札幌スタイル」への反応を調査する必要も生じてくる。

そこで、「札幌スタイル」提案・発信の拠点として、また調査のフィールドとして、札幌スタイル・デザインギャラリーを開設している（札幌市中央区南1西1丸井今井札幌南館5階）。デザインギャラリーでは、現在、「札幌スタイル・プレビュー」として、北海道にゆかりのある作品・製品を展示している。今後、認証事業やコンペティションを通じて、「札幌スタイル」製品の展示を増やしてゆく。また、デザインギャラリーでは、デザイナーによるセミナー・講演会を通じて、人材育成や、市民・経営者に対し、デザインへの理解を促す活動を行う。

4は先に述べた福祉用具のデザイン開発・研究プロジェクトの継続事業である。産・学・官の連携により、具体的な製品開発を試みる。

これらの事業を総合的に展開することにより、デザインに対する理解と活用、デザインを活用した高付加価値製品の開発、高度な生産・加工技術の追求などの動きが広く起こってくることを期待している。

このような、活動への志向性は、「札幌スタイル」コンセプトや、ロゴマークコンセプトに端的に表されている。

### 「札幌スタイル」コンセプト

札幌ブランドを構築するために、「札幌スタイル」を提案していきます。

「札幌スタイル」は、北国の自然と都市が共生する、次の時代の生活像を追求する活動です。

「札幌スタイル」は、質の高い生活を実現するために優れたものを探し出しつくり出す活動です。

「札幌スタイル」は、デザイン・開発から生産、流通、そして生活形成へとつながる活動です。

「札幌スタイル」は、『ゆったり／札幌スローライフ』『もてなし／札幌ホスピタリティ』

『遊びごころ／札幌エスプリ』を、ものづくりの大切なキーワードとして掲げます。

年間降雪量5mを超える人口180万以上の都市は札幌の他にありません。そこには、独特の生活観と生活技術の集積があり、楽しく、温かく、面白く、新しく、美しいものが生まれはじめています。「札幌スタイル」は、コンペティション、認証制度、ギャラリー、ワークショップなどの活動を通じて、その芽を大きく育みます。

### 「ロゴマーク」コンセプト

札幌スタイルのシンボルマークは、北国の街「札幌」を象徴する雪の結晶をモチーフとしています。また、文章や図形などの注釈として説明を加える時に使う記号、アスタリスク“\*”でもあります。

このマーク「スノーアスタリスク」が添えられた商品は、札幌スタイルとしてのデザイン性と品質そして札幌らしさを兼ね備えていることを意味します。

3本のラインで表されている、「デザイン性」「品質」「地域特性」は交わることで、より高い付加価値を生み多彩に商品へと展開していきます。

右下の小さな円は発想の出発点を意味し、それは札幌という街であり、ここに暮らす全てのひとの思いの中にもあります。

今、北国の「人」と「もの」との素敵な関係づくりに「スノーアスタリスク」マークは活動を開始します。

「札幌スタイル」の活動は始まったばかりであり、今現在も、多くの課題を抱えている。

とはいえ、産・学の協力を得て、現実にデザインギャラリーが開設され、第1回目の「札幌スタイル認証」製品もまもなく世に出ようとしている。

まだまだ道のりは長いですが、これらの活動が継続することにより、道産品で実現する札幌の生活スタイルが、広く世界に受け入れられ、札幌、そして北海道の文化・産業の再生・創造につながることを期待したい。

